はじめに（1）

松下昇集成の DVD を作成後、気になっている資料がありました。松下昇概念集 1 の「全共闘運動」の項の註で「この概念（全共闘運動）についてのべられた全ての言説の中で、方法的な否定によっては否定できないもの、してはならないと感じさせるものを、いくつか上げる」として、３つの資料が上げられています。そのうち『大学闘争・・・に関する批評～資料集』(～1988.9~10~) という資料があり、これが気になっていた資料なのですが、松下さんによると「序＝断片的ヴィジョンと題する最初の記述から、69 年 9 月という、バリケード解除後の授業再開強行が全国的におこなわれ、かつ全国全共闘結成集会（東京）が党派連合による全共闘概念の解体を逆説的に開示した時期に生まれた〈　〉が、新聞さえ購読できない生活の中で、必然的な契機によって、69 年以後の情況の資料的な再検討を、唯一の手掛かりとしての図書館の新聞を調査～コピーしながら開始した熱気が感じ取れる。作成主体は仮装被告（団）。問い合わせ先の一つは、概念集作成～刊行主体」とありました。88 年当時の私は早速作成主体と連絡を取り購読を始め、ことに読者として「松下昇についての批評集γ～β系作成過程の時間性の中で、自らの言語（失語）領域とその根拠を照射する契機を与えられていると感じる存在」（序＝断片的ヴィジョン(1)より）と書かれていることもあって、中断する 95 年まで購読し続けたと記憶しています。当然全冊揃っているものと改めて家中を探し出して確かめたところ、序＝断片的ヴィジョン(13)が欠けているものの、他はすべて発見できました。

再読して、これは是が非でも pdf 化して DVD にしたいと思いました。さっそく作成主体と連絡をとり、松下昇集成につながる必須の資料として DVD 版を作成したい旨の手紙を送り、なんとか「判断はお任せします」との返事を頂くことができたのでした。（序＝断片的ヴィジョン(13)は作成主体のところでも見つからないとのことでした。）

構成を作成年順に並べると

通巻 1 号《1969 年 9 月》マスコミ篇第 1 号（上）　～1988.9～10～
　序＝断片的ヴィジョン(1)　　～1988.9～10～

通巻 2 号《1969 年 9 月》マスコミ篇第 1 号（下）　～1989.1～
　序＝断片的ヴィジョン(1)　　～1988.9～10～（通巻 1 号のヴィジョンと同じ）

通巻 3 号≪1969 年 1 月≫マスコミ篇第 2 号（上）　～1989.5～
　序＝断片的ヴィジョン(2)　　～1989.5～

通巻 4 号《1969 年 1 月》マスコミ篇第 2 号（下）　～1989.9～

　序＝断片的ヴィジョン(2)　　～1989.5～　（通巻 2 号のヴィジョンと同じ）

　序＝断片的ヴィジョン(3)　　～1989.9～

通巻 5 号《1969 年 2 月》マスコミ篇第 3 号（上）　～1990.1～

　序＝断片的ヴィジョン(4)　　～1990.1～

通巻 6 号　　不可視の 6 号（序＝断片的ヴィジョン(5)を参照）

通巻 7 号《1969 年 2 月》第 3 号（中―1）　　～1990.5～

　序＝断片的ヴィジョン(5)　　～1990.5～

　序＝断片的ヴィジョン(6)　　～1990.5～

通巻 8 号《1969 年 2 月》第 3 号（中―2）　　～1990.10～

　序＝断片的ヴィジョン(7)　　～1990.10～

通巻 9 号《1969 年 2 月》第 3 号（下）　　～1991.2～

　序＝断片的ヴィジョン(8)　　～1991.2～

序＝断片的ヴィジョン(9)　　～1991.6～

　序＝断片的ヴィジョン(1)～(9)を収録

通巻 10 号マスコミ篇第 4 号

　　《特集号》甲山（学園）闘争～甲山事件 ①

　　《1974 年 3 月》（上）～1991.10～11～

　序＝断片的ヴィジョン(10)　　～1991.10～

　序＝断片的ヴィジョン(5)　　～1990.5～（通巻 7 号のヴィジョンと同じ）

通巻 11 号マスコミ篇第 5 号

　　《特集号》甲山（学園）闘争～甲山事件 ②

　　《1974 年 2 月》（上）～1992.6～

　序＝断片的ヴィジョン(11)について　　～1992.6～

　序＝断片的ヴィジョン(11)　　～1992.3～4～

序＝断片的ヴィジョン(12)　　～1993.3.13～

序＝断片的ヴィジョン(13)　　これは入手できていません。

序＝断片的ヴィジョン(14)　　～1995.12～

以上～1988.9～10～から～1995.12～にわたって刊行された資料・集で、マスコミ篇としては第 5 号～1992.6～まで､序＝断片的ヴィジョンが(14)～1995.12～までとなっています。マスコミ篇は中京地域における報道＝名古屋本社版及び大阪本社版を軸として構成されています。DVD 版を作成するにあたって、マスコミ篇 1 号～5 号についてそれぞれ主要な記事を目録として示しており、目録よりその記事にアクセスすることができます。ただ、「ひとつの文明のかたち～症状がくっきりと浮かび上がってくる。周辺記事は、多くはあえて原資料入手過程の諸条件のままに、そのものとして編集している。」と序＝断片的ヴィジョン(1)に書かれているので、目録記事だけでなく周辺記事も一瞥してみてください。

この大学闘争・・・に関する批評～資料・集は、「過去の事実性に関する固定的な資料というより（ではなく)、情況的〈　〉周しつつ螺旋状に包囲～運動していく（る）過程に関する表現かつ資料」というように作成主体に位置づけられています。すなわち過去を過去として扱うのではなく、現在の情況を包囲し突きいっていく運動過程の過渡的表現資料だということです。その考えを推し進め潜象物理として序＝断片的ヴィジョン(1)～(14)に展開されています。そして「脳（サヌキ・判断）の力ばかり発達させ、感受性（アワ）を忘れ～劣化させたことが現人類の悲劇の因であると気づくなら、我々は何としてもこれまでのような脳の能力（サヌキ）ばかり鍛える人間の生き方を自ら変えて、感受性（アワ）を鍛えなおす生き方を実行する以外に救いはない」として、生命カン～潜象カン～アワの感受性を取り戻し鍛錬することを提案しています。69 年大学闘争以降、人類の文明の根拠自らの存在基盤の根拠が問い直されていることを踏まえれば、当然の提案であるばかりでなく、潜象物理の理論を借りつつも、作成主体の日々の生活に裏打ちされた思索を展開された提案だと思います。潜象物理の全体像どころかその入り口さえぼんやりとしか捉えられないままの私たちとしては「一瞬で了解しなければ永遠にわからない、それが潜象物理だ」との声を背後に聴きつつ、この提案に向かい混迷するわからなさの中、この DVD 版を提出することとしました。

はじめに（2）

以下、技術的なことを順不同で少し述べます。

0　原本をコピーして、各号ごとに１つの pdf ファイルにしてあります。各ファイルには、表紙の前に編集者の作った目録を置きました。文書ごとに１行で、日付、新聞の情報、記事内容（編集者による恣意的なものです。空白になっていることもあります)、製作者の付けたノンブル、です。

1　原本はすべて A3 版横置き右綴で、裏表に印刷してあります。それをそれぞれ１枚の pdf にしました。開いた状態で上部左右にノンブルが入っているので、pdf にすると奇数頁は左上、偶数頁は右上になります（ないこともあります)。目録の各行右端の数字はこの、製作者の付けたノンブルです。ただし、朝日ジャーナルなどで複数頁の文書全体に１つのノンブルがついていることがあり、その場合は内部の頁は 352-1 といったように - を付けて分割しています。これは製作者によります。

2　横長に置いた時、字が縦に並んでいることも横に並んでいることもあります。スクリーンで読み易いように、適宜回転しました。

3　原本の１頁は原則としてある新聞のある面ですが、１面が２頁に分割されていることも多く、また１頁に複数の面が入っていることもあります。

　前者の場合、１面の上部と下部を（中央部分を重複させて）コピーしていますが、上部は必ず偶数頁になっていて、そのために空白の頁が挟まれていることがあります。空白の頁は原則として pdf を作ってありません。

　後者の場合、目録には面毎に１行とってノンブルには 50-a のように a, b を付けました。また縦横が混在していることがあり、その場合は同じ頁を２枚作って一方を回転してあります。

4　上記のような理由で、目録右端の数字は pdf の頁とは違い、その記事に辿り着く役には立ちません。その代わり、その行からその頁にリンクが張ってあります。マウスでその行にカーソルを置いて（指さし印になっていることを確かめて)、左クリックするとその頁に跳びます。目録に戻るには、画面左端の「しおり」をお使い下さい。

5　はじめに (1) で述べた「序＝断片的ヴィジョン」は、各号にあるものの他、１つのフォルダに纏めておきました。

構想と資料提供と「はじめに (1)」は廣部誠一が、pdf 化作業と記事目録と「はじめに (2)」は白鳥紀一が担当しました。

廣部誠一 ＋ 白鳥紀一